

## 渡り鳥の観察会

1月16日(水)は、年長組園児31名、保育園先生4名、庄内森林管理署1名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター4名、総勢40名で「渡り鳥の観察」を実施しました。

酒田地域では小寒以降例年になく寒さが厳しい日が続いていましたが、この日は、少し寒さが緩み絶好の観察日和になりました。

保育園の玄関前で出発式を行い、園児の皆さんはバスに乗り、目的地である最上川河口のスワンパークに向かいました。

当センター職員も一緒に保育園のバスに乗って、双眼鏡の見方、冬鳥の中の水鳥(オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモなど)の生態、なぜ渡りをするのか、鳥の不思議についての事前学習をしました。「秋に北の大陸から酒田に渡って来る鳥は?」、「ハクチョウの空を飛ぶときのスピードはどれくらい?」と二つ質問したところ、「ハクチョウ」、「時速30km」と答えてくれました。ハクチョウはほとんどの園児が正解しましたが、ハクチョウは平均時速50kmで飛ぶことができることを教えました。また、マガモは1.6年しか生きられないこと、子孫を残すために雄は綺麗な冬毛に身を包むことができること。北半球のクジラの親子は、なぜ、命を危険にさらしてまで約2ヵ月かけて5,000kmも離れた北のベーリング海を目指すのか話しをしました。野生の動物たちは、限られた時間を一生懸命に生きるために食べ物を探します。そして、子孫を未来に残すことに努力を惜しみません。命をつなぐ・生きることの大切を伝えました。園児のみんなが元気よく発言してくれるのは、4月から森林環境教育を行ってきた成果がでたのではないかと嬉しくなり、将来が楽しみにになりました。

20分ほど雪道を走った保育園バスは、ようやくスワンパークに到着しました。

小寒の寒さが緩んだとはいえ、スワンパークでは寒さが「じわーと」きます。しかし、冬の「しんちゃんの森」で遊んでいる園児のみんなにとっては、寒さはへっちゃらのようです。双眼鏡を首にかけて観察場所へ駆け出しました。

園児の皆さんは、双眼鏡を覗き「見えた、見えた、ハクチョウが大きく見えた」、「色の違うハクチョウもいるよ」など思い思いの感想を言ってくれました。そんな、園児達の元気な姿を見たハクチョウの家族たち数羽は、急に危ないと思ったのか、「コオーコオー」鳴き、最上川の中州に移動し始めました。代わりにウミネコが餌をねだるように川岸に近づいてきました。ちょっと寒かったけれど、最上川で休んでいる大勢のハクチョウ達を見たことは、園児の心の中にしっかりと刻まれると思います。

最後に、スワンパークのオオハクチョウの像の前で記念撮影をして観察会を終了しました。

